

## 世界水準の音に酔う 及川浩治リサイタル開催

人気・実力共に日本を代表する、本市出身のピアニスト・及川浩治さんのピアノリサイタルは1月24日、登米祝祭劇場で開かれ、訪れた約750人の観衆は情熱的な演奏に酔いしれました。

地元初のピアノリサイタルに及川さんは「地元での演奏は、非常にうれしく光栄なこと。その反面、通常のプログラムとは違った緊張感がありました」と笑顔で語っていました。栗原市から訪れた三浦裕子さんは「及川さんとは中高と同じ吹奏楽部に所属。世界が認めた音色は本当にすばらしく、より多くの人たちに聴いてほしいと思いました」と感想を話してくれました。



ショパン・リスト・ラフマニノフといった代表的な作品から、この日だけのスペシャルプログラムを披露してくれました。

## 安全安心に決意新た 消防団など出初め式開催

市消防団(佐々木敏朗団長)と防犯指導隊(須藤健治隊長)、交通安全指導隊(男澤孝芳隊長)は、平成28年の出初め式をそれぞれ実施しました。

消防団の出初め式は1月10日、市消防防災センターで実施。消防団員約1100人が九つの支団ごとに隊列を組み、登米祝祭劇場から防災センターまで力強く行進しました。消防ポンプ車を使った放水訓練や救助訓練なども披露されました。

防犯指導隊と交通安全指導隊では1月9日、中田総合体育館でそれぞれ出初め式を実施。新年に当たり、市民の安全安心を守る思いを新たにしていました。



火災や特殊詐欺などの犯罪、飲酒運転や交通死亡事故ゼロに向けて、関係機関と連携し活動していくことを誓いました。

## 日本人の知恵に驚き ものづくり体験教室実施

南方小6年を対象にしたものづくり体験教室は1月26日、南方小で開かれ、児童たちはものづくりへの理解を深めました。

これは、時代を担う子どもたちがものづくりへの理解を深め、将来その現場への就業を実現できるよう、宮城県職業能力開発協会が実施している事業。

教室では、蝶つがいの技術に応用したからくり蝶番を作成。縦からも横からも開けることに児童たちは驚いていました。塩愛斗君は「どちらからでも開けるのは、不思議です。日本人の技術と知恵はすごいと思いました」と感想を述べました。



児童たちは、縦からも横からも開けるからくりを解き明かすのに頭を悩ませていました。

## は 山伏に思い馳せ舞う 法印神楽実演会を開催

登米市内法印神楽実演会は1月17日、登米祝祭劇場で開かれ、上沼法印神楽神議会など市内の4団体が、「法印」と呼ばれる山伏(修験者)が演じたという神楽を披露しました。

披露された浅部法印神楽と上町法印神楽は県の無形民族文化財に、上沼法印神楽と上沼獅子舞は市の無形民族文化財にそれぞれ指定されています。

観覧に訪れた及川義雄さん(中田町館)は「法印神楽は歴史ある伝統芸能で、以前から見たいと思っていました。郷土に伝わる芸能を継承することは大切。次世代に引き継いでほしい」と話していました。



本市の法印神楽は三陸沿岸や市内に広まった「浜神楽」と、一関市から中田町に伝わった「流神楽」に大別されます。

## ふるさと名物を応援 県内初の応援宣言を発表

本市は2月3日、「はっ」とや「油麩」などの小麦加工品について、国の支援制度に基づく「ふるさと名物応援宣言」をしました。宣言は県内初で、全国で33番目、東北では5番目となります。

ふるさと名物応援宣言は、中小企業庁が昨年8月に始めた事業で、市町村の特産品の開発やブランド化の取り組みを支援し、地域活性化を図るものです。

宣言をした布施市長は「地域資源のさらなるアピールと商品開発を進めて新たなビジネスにつなげたい」、「登米はっとの会」の飯塚哲朗代表は「地域産業の発展にさらに貢献していきたい」と意気込みを述べました。



宣言により、国からの名物応援事業補助金を優先的に受けられるほか、市単独で、事業協同組合設立の支援などをします。

## 石ノ森氏をしのぶ1日 メモリアルデーを開催

石ノ森章太郎メモリアルデーは1月24日、石ノ森章太郎ふるさと記念館で開かれ、テレビ番組「開運!なんでも鑑定団」に出演している北原照久さんのトークショーやスイーツデコ体験、ミニ四駆コーナーなどに多くの人たちが訪れました。

北原さんのトークショーでは番組でのエピソードや鑑定結果、自身の書いた本などについて語り、来場者を楽しませました。妹や友達と訪れた菅原雪美さん(中田町細谷)は「スイーツデコ体験ではマカロン、クッキー、マーブルアイスを作りました。初めて作ったけど上手にできて楽しかったです」と話していました。



北原さんは「寄せ書きカーテン」についても触れ「物はなかったが夢があった時代。多くの人に見てほしい」と話していました。